



リレー随想

富山県とタイとの架け橋に

富士製薬工業株式会社
代表取締役社長 武政 栄治

今年は日タイ修好130周年の記念すべき年であり、両国首脳間のイベントが続いております。

2012年10月にタイにある医薬品製造受託企業 OLIC(Thailand)Limitedをグループ企業として迎え、そして本年1月に新しい注射剤の工場を竣工させました。

富山工場で製造している一部の注射剤の製造技術・ノウハウをタイの新工場に移管するために、双方の工場技術者が何度も行き交い、漸く同工場より日本向けの出荷が開始されました。

また、両国間の人材交流の結果、今では富山工場でも、英語や片言のタイ語が聞けるようになったり、OLICでも富山県の立山連峰を初めとする観光地や市内の美味しい食事などが話題になったりしております。

タイ工業省傘下の投資委員会の認可による外資優遇制度を活用させていただいたことから、本年10月に同国科学技術大臣の表敬を受けました。同大臣からは、タイの次期経済・産業モデルとして知識、創造、イノベーションに基づく付加価値経済への移行を目指しており、医療分野が対象産業の1つであるとの説明を受けました。当社からも、医薬品産業を通じて、富山県とタイ両国間の更なる関係構築と、タイをハブとしたアジア域内への事業拡大を希望している旨をご説明しました。

タイは地理的にメコン経済圏の中心にあり、ASEAN後発加盟4国のカンボジア、ミャンマー、ラオス、ベトナムに事業進出する際のパートナーとしても着目され、日本の協力も得ながら、それらの国々のインフラ・交通網の整備が期待されております。130年前に日タイ修好と通商に関する宣言の条約が署名され、正式な外交関係が開始されてから現在、同国は自動車産業を中心に日系企業の海外での一大活動拠点となっております。いまや在タイの日本人は70,000人を超え、日本からタイへの渡航も年間140万人を超えております。

OLICはバンコクから約80km、車で約1時間のアユタヤに本社・工場があります。アユタヤは約600年前には、タイの首都だった都市で、チャオプラヤ川とその支流のパー



サック川、ロップリー川に囲まれた地形となっており、川の流れが穏やかであったことから商運として17世紀初めまでヨーロッパと東アジアを結ぶ国際貿易都市として栄えました。日本も朱印船貿易が活発となり、日本人町を作り、ピーク時は1,500人程の日本人が生活していたと言われていています。山田長政が2度にわたるスペイン艦隊の侵攻を防いだと言われていた事でも有名です。

OLICは敷地80,000平米に7つの製剤棟を保有し、注射剤、錠剤、カプセル剤、液剤、軟膏剤、クリーム剤など多岐にわたる剤形の医薬品製造が可能です。新注射剤工場では、日本や欧州の最新の製造設備機器を取り入れPIC/S GMPや日本、米国、欧州のGMPに準拠しております。

日本、富山県発の高品質な製剤をタイで製造し新興国の患者さんにお届けできるよう尽力していく所存です。